opusdei.org

四旬節、復活祭への 道(4)

伝統的な償いの業を通して、 私たちは、神との関係(祈 り)・隣人との関係(施 し)・自分自身との関係(断 食)を正します。

2025/03/21

これまでの記事を読む

子としての回心の道

四旬節第三主日の集会祈願は、この40日間における償いの意味を示しま

典礼は、伝統的な償いの業を実践するよう私たちを招くことによるになるでいる。これらの業を通している。これらの関係(新り)をの関係(施し)・自分自身とがとの関係(施し)・自分自身とがといる(断食)を正しますで、この精神とできる機会はたくさんあります:「償い

とは、たとえ、体が抵抗し、心が妄 想のなかに逃げこもうとしても、決 めた時間割を正確に守ること、決 まった時刻に起き上がること、骨の 折れる難しい仕事であっても理由な く遅らせずに果たすことです。神と 隣人と自分に対する義務を果たすた めに、必要な時間を見つける努力、 これも償いです。疲れや嫌気や冷淡 な心であるにもかかわらず、祈りの 時間になれば祈りをする。そうすれ ば、あなたは償いの人なのです。償 いとは、自分の家族をはじめ、隣人 と常に最高の愛徳をもって接するこ と、つまり、病人や悲嘆に打ちひし がれている人々を細やかな心でお世 話し、都合の悪い時に訪れるうるさ い人々を我慢して迎えることです。 さらに人々の正当な必要を満たすた め、快く計画を変更し、あるいは中 止することも。日々出くわす幾多の 小さな困難を快活に耐える、始めた ときの熱意が薄れても任務を中途で 放棄しない、出されたものをわがま

まに負けないで感謝の心でいただく、いずれも償いのわざです。両親や、一般に指導・教育の任に携わる人々の場合なら、必要な時に、主観や感傷をまじえずに、過ちの本質や当事者の状態を勘案しながら、過ちに陥った者を正すことが償いになります | 131。

同時に、神の恵みがなければ、外面的な行いは実りがありません。全致の助けがなければ、キリストに一致なたないできないからです。これできないたを喜ばせるがの大けに見える「隠れたところ」で行いますは、頻繁に意向を正し、の栄光のみを求め、すべての人のいを願いながら、実践します。

使徒ヨハネは言います:「目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません」

(EII)。この言葉は、私たちを深い内省 と導きます。愛の二つの側面を分 けることはできません。神のまとはできません。ことをを とに生きていることが、自己というが、 が、私たちの内的生活と使徒子というが、 が、していきます。それは、子みいきます。 では事中間・友人などの身近なれます。 とは、対する試実な献身として家 は、ないます。

[1] 「Deus, omnium misericordiarum et totius bonitatis auctor, qui peccatorum remedia in ieiuniis, orationibus et eleemosynis demonstrasti, hanc humilitatis nostrae confessionem propitius intuere, ut, qui inclinamur conscientia nostra, tua semper misericordia sublevemur」 (□ - マ

ミサ典書、四旬節第三主日、集会祈願)。

[2] カトリック教会のカテキズム 1434番参照。

[3] 聖ホセマリア『神の朋友』138 番。

[4] 「tibi sine te placere non possumus」(ローマミサ典書、四旬節第四土曜日、集会祈願)。

[5] マタイ6・6参照。

[6] ーヨハネ4・20。

Alfonso Berlanga

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shijyunsetsu-fukkatsusai-michi4/(2025/12/16)